

OCFC INFORMATION

OCFCの病原体迅速診断システム

OCFCでは患者さんに速やかに正しい診断、適切な治療を選択するために院内迅速診断システムを採用しています。この検査により約15分から30分以内で患者さんに病態の説明が可能となっております。一般的な迅速検査として、検尿・血算・血沈・レントゲン撮影があります。検尿は尿路感染症の診断に必須です。血算では貧血の診断、さらに白血球の増加と血沈・レントゲン写真と総合して肺炎など重篤な感染症の診断に有効です。OCFCのもう一つの特徴は豊富な病原体診断システムにあります。咽頭や鼻腔、眼結膜・便等から約15分で病原体を診断できます。OCFCの迅速診断法により判明する病原体はこれから流行するインフルエンザA,B、ロタウイルス（冬季の白色便性下痢症）、溶連菌、夏季のアデノウイルス、大腸菌O157などがあります。特にインフルエンザの診断は昨年の小流行にもかかわらず、迅速診断を280人におこない107人に診断しました。診断された方は3人の方を除いて抗インフルエンザ剤が有効で、1～2日以内に症状の軽減、解熱効果が得られました。インフルエンザワクチン接種の方にも陽性者はいらっしゃいましたが、弱陽性で、つまりインフルエンザウイルスの量は多くなく、軽い症状でおさまっております。

迅速検査は治療方法の選択に大変重要な情報となりますので、必要と判断された方はなるべく検査を済ませましょう。検査をご自分の意志で希望される方はお申し出下さい。迅速検査について詳しく知りたい方は受付に解説書（Office Laboratory クリニック検査室 一病原体迅速診断法は21世紀のクリニック医療に貢献するかー 大川洋二著）がありますのでお読みください。

感染症 だより

夏風邪の流行 7月から急速に流行したのがヘルパンギーナでした。1～3日間の高熱（38～40℃）とその後2～3日続く咽頭痛により水分もよく摂れません。7～8月で84名の患者さんが来院されましたが、点滴や入院となるかたはいませんでした。夏風邪で眼結膜が赤く、咽頭に白い膜（白苔）ができているとアデノウイルスによる咽頭結膜炎（プール熱）です。7月18名、8月15名でした。この疾患はヘルパンギーナと異なり、5～10日間の発熱があり、時に脱水、肺炎となる可能性があります。OCFCでは4名に点滴を行ない、脱水の補正をおこないましたが、入院に至る方はいませんでした。結膜は不思議なことに左眼球が強く発赤される方がほとんどでした。ヘルパンギーナも咽頭結膜炎もウイルス性疾患なので抗生剤は必要ありません。1週間以上も熱があって、抗生剤を使用しないで頑張った患者さんとその家族の方には頭が下がる思いです。でも本当の医療ができたと思っています。

その他の感染症、一溶連菌今年は流行せず 例年夏に患者さんが増加する溶連菌感染症の今年の発症は4人でした。昨年は40人以上の患者さんに診断しております。流行性耳下腺炎は24名で2名の方が髄膜炎に至らなかったものの、1週間以上熱が続きましたがその後軽快しております。また、30代の流行性耳下腺炎の方が2名来院されました（抗体検査済み）。麻疹は依然と多く4人です。1歳過ぎたら先ず麻疹ワクチンです。また水痘、伝染性紅斑、嘔吐下痢症、手足口病の方も数名ずつ受診されています。

麻疹

修飾麻疹: 予防接種した患者さんが麻疹を発症すること。予防接種の効果が不十分なために発症すると考えられている。Secondary Vaccine Failure: SVFとも呼ばれている。麻疹接種後の時期でも発症している。麻疹の典型的な症状がそろわないこともあり、修飾麻疹といわれている。これを防ぐために2回接種法が勧められる。